日刊 動労千葉

86. 8. 14

No. 2319

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

全国に驚きと共感の渦巻きおこす

協販部・全国上映オルグ団

「俺たちは鉄路に生きる」上映運動と物品販売運動は、この六月行動開始以降、全国津々浦々において開催され、上映会はすでに二〇ケ所を超え驚きと共感の渦を巻き起こしている。この活動を通して今、国鉄労働運動の重大な危機のなかで、動労千葉が血を流して切り拓いた二波のストライキの偉大性・正義性についてますます確信を深めてきた。

全国にすばらしい仲間がいる

ここに紹介する「機関紙」と「手紙」は、九州・長崎、そして北海道・札幌からのもので全国各地で動労千葉のたたかいに連帯し、勝利を願っている多くの人々がいるんだ、中曽根の国鉄分割・民営に怒っている多くの人々がいるんだ。

日刊
全逓長崎 日刊紙
発行責任者 教宣部長
住所 長崎市
電話
No.4284
86.7.10

労働組合が経営側と一体となって強行な語る？

おはようございます
先月の二十九日、東京において「国鉄改革を推進する職員の集い」なるものが開催されている。そして、この集会には来賓に行政庁、民鉄経営者らも含めて二、三〇〇名が参加したと報じてある。
管理職を中心とする十九の団体、改革推進グループが集まり、これに呼応した動労、鉄労、全施労、真協労の四組合が参加している。
経営側と一緒になって推進する
経営者側員でもある職員管理職だけの集会ならともかく、"労働組合"という看板を掲げ、なおも組織が経営側と一体となり、「国鉄改革を成功させる」ということは何を意味するのか。
それがどうもおかしい、政府当局と一緒になって自分達の仲間の首を切っていくということである。
あいさつに立った鉄道労働者は「まっぴらだ絶対に通さない！」などと改革推進を呼び掛けている。
また、動労の組織を変質させ、そして、もぼやき労働組合らしからぬ発言で「国鉄改革がうまくいかないのは当局の責任主義と国労幹部に原因がある！」などと批判している。
何のための労働組合か
まさに、労働組合が一人歩きしているのではないだろうか。
そもそも、"労働組合"なるものは一人の労働者の首を守ってこそ、その本分を発揮できるはずである。そのための保障制度ともいえる組合費を一人一人の労働者はおっている。
しかし、その保障がなされないとなるとどうだろう。誰も好き好んで組織の強化・拡大と組織の活性化をはかろう！

記録映画
俺たちは鉄路に生きる！
動労千葉ストライキの記録
国鉄分割民営化に警鐘乱り！
鉄路に生きる労働者の叫び
あの、「若者たち」「ふるさとの旅」の名監督熱誠作品。一時間五十分。明日18時、動労総社会館入場料、一〇〇〇円。分割の危機を。

深夜勤導入絶対反対
安い賃金の中からあい組合費をおっぱりはしない。
自分さえ良ければ
彼らの考え方は、国労の苦悩と苦闘を尻目に、弱肉強食
弱い者を切り捨て、自分だけが生き残れればそれでいいとする貴に労働者達と言えない。
労働組合という名を掲げ、新労をはじめとする組織よ！浪人の利益を改め、労働組合の本分を思い起せ！
一人の労働者の首を守ろうとしない組織がどうして職場を守れようか？守ろうとしたらもはや労働組合ではなかろう。

支部海水浴
高浜海水浴場
かすみ荘
支部傾例の海水浴を七月二十七日（日）に開催します。
日頃の家庭サービス不足を解消するためにも分数の方の参加を宜しくお願いします。
物分、中央局バス2台
100分、東南バス一台
今日のお天気

（読み終えたら必ず家庭に持ち帰りましょう）

動労千葉の皆さんへ

皆さん お元気ですか？ この前のストライキは大変だったみたいだけれど、成功したので、とてもうれしいです。 分割民営化をさせないために、戦っているので、とてもえらいと思います。
この前は 写真集を送ってくれて、どうもありがとう。 お父さんに見つからないように、こっそり読みました。
この前に手紙を書いた時は四年生だったけれど、もう五年生になりました。 五年生になってから、社会科で、戦争の事や、右翼の事などを、いろいろ勉強しました。
それで、ますます戦争を起こしてはいけないと思うようになりました。
自民党や 資本家が悪くて、国鉄が赤字になっているのに、国鉄で働く人達を、12万人も首切りにするなんて、ひどいと思います。
絶対に、中曽根の言う通りにさせてはいけないと思います。動労のいやがらせに負けないで、国労の人達も、ストライキをやるようになるように、がんばって下さい。
今日は、動労千葉の映画を見れて、中村さんとも会えて、本当に良かったと思います。

札幌の小学校五年生のみかたより

ハンドル・ハンマーをポスターに持ちかえ

協販部、上映オルグ団は県下はもとより、北海道・九州、いまは沖縄に千葉運転区支部の後藤君がでかけ、物品販売と上映会への協力・参加要請をして全国をまわっている。

ハンドルやハンマーをポスターやチラシ、チケットに持ちかえ、これまで行ったことのない国労分会や、あらゆる労組を訪問した。どこでも「本当に今たたかわなければやられてしまう。支援・協力は惜しまない」という国労の仲間が「他人事ではない。国鉄がつぶされたら次は自分達だ。頑張って下さい」という全逓・自治労・教組の人達によって動労千葉への支援・協力が拡大している。

そればかりではない。民間の資本にくみ込まれた右翼二組のもとで苦闘している労組の仲間は我がことのように心配されるなど、すばらしい出会いに勇気づけられるなど苦闘の中で学ぶことばかりだ。